

F-38 家庭経営の変動に関する生活史的研究—福島県の麓・山・海地区を例として— 2. 生活の変容 3). 住生活 山形大教育 金子幸子

目的 住空間の構成および住み方の変容を検討し、その要因と家庭経営の変動との関連について考察する。

対象および方法 福島県会津山間地田島地域の兼業農家と、浜通り相馬地域の漁家とそれぞれ30戸ずつ計60戸を対象とし、実地踏査および面接法により調査を行った。調査期日は昭和48年8月である。

結果 新築や部分的改造は両地区とも老朽、不便、あるいは長子の結婚などの動機により、改造は台所や風呂場が圧倒的に多く、その時期は、田島地域は当該戸数の約83%、相馬地域は同じく約45%が昭和40年以降に行っている。また新築住居は各地区の間取型の系譜を受けつつも、別棟ごみつた浴室や便所の住居内設置、作業空間の分離、および個人生活空間の確保など空間構成は概して機能的に変容しているが、これらの設計者は大部分が世帯主であり、主婦の参加は僅かであることを注目したい。約30～20年以前より住空間が全然変容せぬものは、田島地域にのみ少数例残っている。

住生活は、給水や燃料の変化に伴って家事労働は著しく軽減し、冬季の採暖方法や建築の近代化により快適性、安全性は飛躍的に増大したが、たんらんの際の家族が生る位置は原則的には昔日のままであり、田島地域の瀧の原地区は大部分が変化せず、他の地区では約半数が変化している。

住に関する変容は、個別的な変動因より社会的変動因による影響が大であると考えられるが、経営主体たる主婦に対し、特に住に関する啓蒙の必要を痛感した。